

## G3七夕賞 過去10年データに基づく好走傾向

近3年では、父キングマンボ系が8頭馬券絡みと言うかなり偏った傾向を見せております。

米国指向の持続力が求められるレースで、人気薄で激走する馬に多いのは、父か母父に大系統ミスプロ系か米国型ノーザンダンサー系を持つ馬。

ただし、昨年は馬場が軽く、前傾ラップ(平均ペース)ながら末脚の伸びを要求される馬場であった事は頭に入れておきたいところ。(母父ディープ3頭の上位独占はそれが最大の理由です。)

今週末は雨の予報が出ており(降水確率80%)  
昨年のような馬場にはならない可能性があります。

前走で1600m以下に出走して5着以下に負けている馬の  
距離延長ローテは・・・  
単回率889%/複回率436%  
(今年は該当馬無し)

前走が天皇賞春だった馬は、3頭が出走して2頭の馬券絡み。  
複回率は276%  
今年はサンレイポケットが該当。

小回りコースで上り時計を要するレースですが、  
過去10年の3着以内馬30頭中24頭が「上り5位以内」の  
末脚を使っており、上り時計が掛かるレースでメンバー上位の  
脚が使える事が重要なポイントだと考えられます。

過去10年の3着以内馬は、そのキャリアの中で  
鈍足上りレース(平均上り3Fタイム36秒9)における  
好走経験がありました。

先週日曜日の福島芝(良馬場)は標準馬場で、  
今週は予報通りに雨が降れば、やや重目の馬場になりそう。

レースの上り3Fタイムが36秒以上を要した鈍足上りレースで  
好走実績があった馬には注意を払いたいと思います。

## G3七夕賞 2023 全頭診断書

・エヒト(牡6歳)

父:ルーラーシップ(キングマンボ系)

父母父:トニービン(欧グレイソヴリン系)

母父:ディープインパクト

祖母父:デインヒル(欧ダンチヒ系)

曾祖母父:欧サドラーズウェルズ

牝系ファミリーは短距離の消耗戦に適性が高い一族。  
これは、デインヒル×サドラーズウェルズという  
持久力が強化された配合がもたらしたものでしょう。

本場自身、上り33秒台の脚を使った事は3度しかなく、  
レース上りが35秒台のチョット鈍足上り気味レースが得意です。

レース上りが36秒以上を要するレースでは  
4度の内3着が1度きりと明らかに苦手な様子。

先週と同じような馬場になれば勝ち負けでしょうが、  
雨がしっかり降るようなら、消してもいいかも知れません。

血統評価:C

鈍足適性:C

小回り適性:B

相対指数:B

総合評価:良B/雨D

・カレンルシェルブル(牡5歳)

父:ハービンジャー(欧ダンチヒ系)

父母父:欧ネイティヴダンサー系

母父:ハーツクライ(Tサンデー系)

祖母父:米ミスプロ系

曾祖母父:欧リファール

母系は米国牝系で、七夕賞の血統テーマと一致します。  
今年には米国型血統を持つ馬が少ないので、  
血統的なアドバンテージが少なからずありそうです。

実績面でも強調材料があり、  
2走前に当コースの0PL(稍重/持続戦)で上り最速勝ち。  
上り36秒6を要した消耗戦でも上り最速勝ち経験。

血統評価:B

鈍足適性:B

小回り適性:B

相対指数:B

総合評価:B

・ガロアクリーク(牡6歳)

父:キンシャサノキセキ(Pサンデー系)

父母父:欧リポー系

母父:キングマンボ(欧ミスプロ系)

祖母父:欧ブラッシンググループ系

曾祖母父:欧リファール

母は米国産馬ですが、母系の源は  
凱旋門賞馬ゴールドリバーから始まる  
フランスの一流牝系ファミリーです。

ただ、母父に大系統ミスプロ系を持つ事は  
キンシャサノキセキ産駒にとっては、  
持続力勝負への対応力を強化できる点で  
七夕賞への適性が見込めるポイントになります。

ただやはり、本質的にはフランス牝系出身ですので、  
やはり「タメて切れる末脚」を行かせる競馬が向いています。

それでも、皐月賞3着という実績は、このメンバーなら胸を張れるもので、  
長欠明けをひと叩きされた今回、どんな競馬を見せてくれるか  
少し楽しみではあります。

血統評価:C+  
鈍足適性:C  
小回り適性:B  
相対指数:B  
総合評価:C+

・ククナ(牝5歳)

父:キングカメハメハ(欧キングマンボ系)

父母父:欧ノーザンダンサー系

母父:ディーピンパクト

祖母父:キャンディストライプ(米ブラッシンググループ系)

曾祖母父:米ナスルーラ系

母クルミナルは桜花賞2着、オークス3着馬。  
アルゼンチン牝系にディーピンパクトという配合は、  
直線のトップスピード強化配合で、実績もそれに準じたもの。

ククナも母同様に後傾ラップの瞬発戦に向いており、  
昨年のような馬場・展開になれば警戒が必要でしょうが、  
上り時計を要する鈍足レースになると、どこまでやれるか？

血統評価:C

鈍足適性:C

小回り適性:D

相対指数:C

総合評価:良C/兩D

・グランオフィシエ(牡5歳)

父:キングカメハメハ(欧キングマンボ系)

父母父:欧ノーザンダンサー系

母父:ダイワメジャー(Pサンデー系)

祖母父:エリシオ(欧フェアリーキング系)

曾祖母父:米ボールドルーラー系

父が大系統ミスプロ系。

母系の配合ダイワメジャー×エリシオは

持続力強化の配合ですが、強化されるのは平坦小回りよりも  
ゴール前に坂があるようなコースで生きる持続力になります。

本馬の実績は、東京コースの瞬発戦に偏っており、

例年通りの七夕賞のようなレースには適性が低いと考えます。

血統評価:C

鈍足適性:C

小回り適性:D

相対指数:B

総合評価:D

・サンレイポケット(牡8歳)

父:ジャングルポケット(欧グレイソヴリン系)

父母父:欧ヌレイエフ

母父:米ニアークティック系

祖母父:サンデーサイレンス

曾祖母父:欧ノーザンダンサー系

ジャングルポケット自身はダービー馬ですが、種牡馬としてはスタミナと馬力を伝えすぎるため、小回りコースの持続力勝負に向く適性を伝える種牡馬として直系の後継種牡馬が育っておりません。

サンレイポケットの場合も、やや直線スピードが不足しており、勝ち味に遅いタイプとなっております。

しかし、母系から米国的な持続力の強化を受けており、ジャングルポケットから遺伝する適性を更に強化されており、良馬場開催でもレース上りが37秒以上を要した新潟大賞典を上り最速で差し切って優勝したように、極端な消耗戦では軽視出来ない存在です。

近走は適性を超える距離への延長ローテが災いして凡走続きですが、ベスト距離の2000mに戻り、消耗戦になるようであれば、まだ終わってなかったのか！？と驚かされるシーンがあるかも知れません。

ただ、馬場が悪くなりすぎると割引になりそうです。

血統評価：注  
鈍足適性：B  
小回り適性：C  
相対指数：B  
総合評価：注

・シフルマン(牡7歳)

父：ハービンジャー(欧ダンチヒ系)

父母父：欧ネイティヴダンサー系

母父：サンデーサイレンス

祖母父：欧ノーザンダンサー系

曾祖母父：欧グレイソヴリン系

祖母は消耗戦の秋華賞とジャパンカップで

好走したファビラスラフィン。

血統評価:C

鈍足適性:D

小回り適性:C

相対指数:D

総合評価:D

・ショウナンマグマ(牡4歳)

父:ザファクター(米ダンチヒ系)

父母父:欧ミスプロ系

母父:ステイゴールド(Tサンデー系)

祖母父:メジロマックイーン(欧トウルビヨン系)

曾祖母父:欧ネヴァーベンド系

今年の出走メンバーで唯一の「父米国型ノーザンダンサー系」

前走は馬場が敗因。

2走前の中山記念は相手にG1級がゴロゴロ。

それでも着差は小差で適性の高さを証明しておりました。

父はダート短距離種牡馬ですが、本馬は母父にステイゴールドを持っており、ザファクター産駒としては異例の距離適性を持つ存在です。

実績からは1800m専用馬のイメージですが、2000mは東京と中京での凡走ですので、得意の小回りコースなら2000mでもやれる可能性が潜んでいます。

血統評価:注

鈍足適性:B

小回り適性:B

相対指数:A

総合評価:注意

・セイウンハーデス(牡4歳)

父:シルバーステート(ディープ系)

父母父:シルバーホーク(欧ロベルト系)

母父:マンハッタンカフェ(Tサンデー系)

祖母父:エリシオ(欧フェアリーキング系)

曾祖母父:マルゼンスキー(欧ニジンスキー系)

サンデーサイレンスの3×3クロスを保持

シルバーステート産駒の距離適性は芝2000mで  
同産駒全体の勝ち星シェア32.1%を占めております。  
ただし、ラップ的には瞬発戦に良績が集中しており、  
(勝ち星シェア77.8%が瞬発戦です)  
持続戦、消耗戦は馬場が軽い夏の小倉がベスト。

本馬自身、中距離以上の鈍足上りレースは  
毎日杯4着、菊花賞17着、新潟大賞典2着。

ただし、新潟大賞典は特殊馬場でレース上りが36秒5を要しましたが  
ラップ的には瞬発戦に近いもので、上り3位以内をマークした馬が  
上位を独占したレースでした。

牝系ファミリーは芝2000mが本領ですが、  
新潟、中京に実績が集中する「ローカル左回り」を  
得意とする一族です。

恐いのは芝よりもダートの勝ち星が多めの  
パワーと持続力をもつ牝系でもあり、ダート血統馬が  
穴をあける傾向がある七夕賞では無視は危険かも……

血統評価:C

鈍足適性:C

小回り適性:C



相対指数:A

総合評価:C

・テーオーソラネル(牡4歳)

父:シルバーステート(ディープ系)

父母父:シルバーホーク(欧ロベルト系)

母父:キングヘイロー(欧リファール系)

祖母父:トニービン(欧グレイソヴリン系)

曾祖母父:米ボールドルーラー系

シルバーステート産駒ですが、  
母系に入って持続力を強化するキングヘイローを  
母父に持ち、同じく母系に入って小回りでの  
持続力を強化するトニービンを祖母に、  
曾祖母はスピードの持続力を底上げする  
米ボールドルーラー系と言う持続力強化に  
特化した配合を持っています。

その影響もあって、本馬は鈍足上りレースで  
2度馬券になっており、3連勝中のディープ系の昇級戦  
でもありますので、推し馬ではありませんが消せません。

血統評価:C

鈍足適性:B

小回り適性:B

相対指数:B

総合評価:C

・トーラスジェミニ(牡7歳)

父:キングズベスト(欧キングマンボ系)

父母父:欧テディ系

母父:マンハッタンカフェ(Tサンデー系)

祖母:ノーザンダンサー直仔

## 曾祖母: 欧リポ一直仔

21年の勝ち馬。

コテコテの英国血統代表格とも言える

キングズベスト産駒は若い頃はスタミナが完成せず

短距離戦の消耗戦で走る産駒が多いのですが、

古馬になってスタミナが完成すると、中距離に

適性がシフトする傾向があります。

ただ、その場合も、スピードを問われない

雨馬場による消耗戦ラップに良績が集中します。

また、6歳夏で完全にピークアウトする傾向が顕著で、

7歳以上で馬券に絡んだ産駒は今のところ出ておりません。

本馬は典型的なキングズベスト産駒で、

21年の雨馬場+鈍足上りとなった当レースで勝ち、

6歳になった昨年の当レース(末脚のスピードを要求されたレース)

では16着(ビリ)に惨敗致しました。

近2走は、どちらも雨馬場でありながら

4秒以上のタイム差で惨敗しており、

年齢的に巻き返しを期待するのは酷だと考えます。

評価対象外とします。

・バトルボーン(牡4歳)

父: シルバーステート(ディープ系)

父母父: シルバーホーク(欧ロベルト系)

母父: ジャングルポケット(欧グレイソヴリン系)

祖母父: 米ポールドルーラー系

曾祖母父: 欧テディ系

母のコンカランはジャングルポケット産駒らしい

小回りの鈍足上りレースで持続力を活かす競馬を得意としておりました。

本馬はキャリア5戦で、鈍足上りレースの経験はありませんが、長く脚を使えるタイプで、恐らく母と同様の適性を受け継いでいると思われます。

飛びが大きいので、狭い福島で内枠を引くと窮屈な競馬を強いられて力を出せない可能性もありますが、4連勝中のディープ系で、NF天栄仕上げの休み明け。

軽くは扱えません。

血統評価:B

鈍足適性:未経験

小回り適性:B

相対指数:A

総合評価:B

・ヒンドウタイムズ(セ7歳)

父:ハービンジャー(欧ダンチヒ系)

父母父:欧ネイティヴダンサー系

母父:ディープインパクト

祖母父:欧ヌレイエフ

曾祖母父:米ダマスカス系

米国牝系で、ファミリーの出世馬は本馬以外全てダート活躍馬。

逆に言えば、それだけ小回りコースにおける持続力やパワーに秀でた牝系という事で、小倉の重賞で1勝2着1回、内回りコースの2000m重賞で2度の馬券絡みと言うのも納得できる成績です。

母父がディープインパクトですが、本馬は体型から察するに

父ハービンジャーの影響が大きいようで、持続力タイプの体型です。

7歳馬ですが筋肉の硬化が遅いセン馬であり、  
休養期間が長かったのでキャリアもまだ21戦。

4歳の頃には当レースで4着に敗れましたが、  
力を付けた今なら、雨が降ればチャンスが広がりそう。

血統評価:C

鈍足適性:C+

小回り適性:B

相対指数:B

総合評価:C+

・フェーングロッテン(牡4歳)

父:ブラックタイド(Tサンデー系)

父母父:欧リファール系

母父:キングヘイロー(欧リファール系)

祖母父:サクラバクシンオー(プリンスリーギフト系)

曾祖母父:米ダマスカス系

福島1800重賞ラジオNIKKEI賞の勝ち馬。

1800mより2000mの方が合っており、  
母系の配合通りに持続力に優れたタイプです。

プリンカーを着用するようになってからは  
菊花賞以外で馬券圏外がなく、堅実さはメンバー随一。

しかし、半兄ピクシーナイトを含め  
雨馬場になると信頼度が低下する牝系ファミリーの一員である事。

前走で逃げた馬の馬券絡みがないレースである事。

斤量58キロとハンデが重い事。

このような不安材料は抱えております。

血統評価:C+

鈍足適性:C+

小回り適性:B

相対指数:B

総合評価:C+

・ホウオウエミューズ(牝6歳)

父:ロードカナロア(欧キングマンボ系)

父母父:米ストームキャット

母父:アグネスタキオン(Pサンデー系)

祖母父:ホワイトマズル(欧リファール系)

曾祖母父:トニービン(欧グレイソヴリン系)

血統の字面ではマイル以下が良さそうですが、牝系ファミリーが1800から2400mを主戦場とする一族で、本馬もその適性を受け継いでいるようです。

母系に入って持続力を強化するアグネスタキオンを母父に持ち、小回りの持続力強化血統であるトニービンを母系の底に持っている事で、鈍足上りレースへの高い適性を見せています。

雨馬場が得意である事も天気予報通りなら押し材料。前走から据え置きになる54キロのハンデも魅力的。

血統評価:B

鈍足適性:B

小回り適性:B

相対指数:D

総合評価:B

・レッドランメルト(牡4歳)

父:ディープインパクト

父母父:欧リファール系

母父:欧ダンチヒ系

祖母父:米ヘイロー系

曾祖母父:欧ハイペリオン系

アルゼンチン牝系にディープインパクトの配合は、  
直線のトップスピード強化配合です。

近2走は雨馬場の鈍足上りレースで2桁着順。  
大敗からの巻き返し率が非常に低いディープ産駒であり  
ここでいきなり変わるようなら御免なさいです。

評価対象外とします。